

看護学研究科看護学専攻 博士前期課程 研究者コース 履修系統図

「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)

博士前期・後期課程のそれぞれの「修了認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)を実現すべく、両課程において共通科目と専門科目から編成されている。また、専門科目においては、共通して基礎看護学分野・生涯発達看護学分野・広域看護学分野の3分野を設けている。
 [博士前期課程]博士前期課程においては、看護実践の担いどころとなる研究力とともに教育力を有する研究者を育成する「研究者コース」と、高度実践看護師を養成する「専門看護師コース(精神看護学、老年看護学、災害看護学)」を設け、両コースの基礎的な理論等を学ぶ共通科目とともに、各コースに分野・領域に応じた専門科目を配置して編成する。そのため、博士前期課程における「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)を次のように定める。

<共通>
 1) 看護実践の基盤となる理論を学ぶ科目を配置する。
 2) 科学的根拠に基づいた質の高い実践を目指した研究のできる基礎的な能力を培うための科目を配置する。
 3) 高い倫理性を身につけた専門職業人を育成するための科目を配置する。

<研究者コース>
 1) 研究の一連のプロセスを確実に理解し、研究課題の焦点化ができるように科目を配置する。
 2) 基礎教育や現任教育に関与できるための基礎的な教育力を涵養するための科目を配置する。

| 身につけるべき能力 | | 1年次 | | 2年次 |
|--|---|--|--|-----|
| <p>〈共通〉 ①</p> <p>看護実践を科学的・論理的に探求できる。 看護実践に潜む経験知を大切にしながらも、根拠に基づく看護を目指して、看護現象を科学的・論理的に探求できる。</p> | <p>看護理論</p> <p>フィジカルアセスメント</p> <p>最新病態生理学</p> <p>理論看護学特論</p> <p>精神科アセスメントと精神科診断学</p> <p>精神療法</p> <p>精神看護高度実践看護介入技法</p> <p>母性看護学特論</p> <p>小児看護学特論</p> <p>成人看護学特論</p> <p>老年看護学特論Ⅰ(老年看護学の基盤)</p> <p>老年看護学特論Ⅲ(病態・治療論)</p> <p>公衆衛生看護学特論</p> <p>在宅看護学特論</p> <p>災害看護対象論</p> <p>災害と制度</p> | <p>看護政策論</p> <p>臨床薬理学</p> <p>精神科薬物療法</p> | <p>リエゾン精神看護学</p> | |
| <p>〈共通〉 ②</p> <p>高い倫理性を身につけ、看護の質向上に関与できる。 看護職者としての誇りと高い自覚に基づいて、常に理想の看護を探求しながら、人間と命の尊厳を遵守し、絶えず看護実践・研究・教育の質の向上に関与できる。</p> | <p>哲学的人間論</p> <p>コンサルテーション論</p> <p>精神障害者制度・法律特論</p> <p>災害看護ケア論</p> | <p>看護倫理</p> <p>国際看護論</p> <p>理論看護学演習Ⅰ</p> <p>精神障害者ケースマネジメント支援論</p> <p>認知症治療看護援助論</p> <p>母性看護学演習Ⅰ</p> <p>母性看護学演習Ⅱ</p> <p>小児看護学演習Ⅰ</p> <p>成人看護学演習Ⅰ</p> <p>老年看護学特論Ⅳ(看護実践論)</p> <p>老年看護学演習Ⅰ(慢性期における老年看護)</p> <p>公衆衛生看護学演習Ⅰ</p> <p>在宅看護学演習Ⅰ</p> <p>災害看護援助論</p> | <p>理論看護学演習Ⅱ</p> <p>小児看護学演習Ⅱ</p> <p>成人看護学演習Ⅱ</p> <p>公衆衛生看護学演習Ⅱ</p> <p>在宅看護学演習Ⅱ</p> <p>防災・減災看護論演習</p> <p>要介護者看護援助論</p> | |
| <p>〈研究者コース〉 ①</p> <p>実践に即した研究課題を明確にし、適切な方法を選択して研究に取り組むことができる。 看護実践の経験の中から自ら解明したい課題を明らかにして、文献検索・検討を通して先行研究の成果を理解したうえで、自らの課題解明のために適切な研究方法を選択して研究に取り組むことができる。</p> | <p>看護研究Ⅰ(総論)</p> <p>看護研究Ⅱ(統計)</p> <p>理論看護学特別研究</p> <p>精神看護学特別研究</p> <p>母性看護学特別研究</p> <p>小児看護学特別研究</p> <p>成人看護学特別研究</p> <p>老年看護学特別研究</p> <p>公衆衛生看護学特別研究</p> <p>在宅看護学特別研究</p> <p>災害看護学特別研究</p> | | | |
| <p>〈研究者コース〉 ②</p> <p>看護職の教育的機能を理解し、現任教育や基礎教育に関与することができる。 看護実践における健康教育や患者教育等の看護職の教育的機能を理解し、実践の場における現任教育や看護専門学校や大学教育など基礎教育に関与することができる。</p> | <p>看護教育論</p> <p>看護管理論</p> <p>老年看護学特論Ⅱ(健康生活評価)</p> | <p>老年看護学演習Ⅱ(ケア施設における老年看護)</p> | <p>災害看護連携論</p> <p>老年看護学特論Ⅴ(サポートシステム)</p> | |

看護学研究科看護学専攻 博士前期課程 専門看護師コース 履修系統図

「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)

博士前期・後期課程のそれぞれの「修了認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)を実現すべく、両課程において共通科目と専門科目から編成されている。また、専門科目においては、共通して基盤看護学分野・生涯発達看護学分野・広域看護学分野の3分野を設けている。
 [博士前期課程]博士前期課程においては、看護実践の拠りどころとなる研究力とともに教育力を有する研究者を育成する「研究者コース」と、高度実践看護師を養成する「専門看護師コース(精神看護学、老年看護学、災害看護学)」を設け、両コースの基盤的な理論等を学ぶ共通科目とともに、各コースに分野・領域に応じた専門科目を配置して編成する。そのため、博士前期課程における「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)を次のように定める。

- <共通>
- 1)看護実践の基盤となる理論を学ぶ科目を配置する。
 - 2)科学的根拠に基づいた質の高い実践を目指した研究のできる基礎的な能力を培うための科目を配置する。
 - 3)高い倫理性を身につけた専門職業人を育成するための科目を配置する。
- <専門看護師コース(精神看護学・老年看護学・災害看護学)>
- 1)人々の多様なニーズに応える高度看護実践能力を培うために、高度実践力、相談力、調整力、倫理調整力、教育力、研究力、の6つの能力を修得できるように科目を3 領域(精神看護学・老年看護学・災害看護学)に配置する。
 - 2)学生自身が自らの実践能力を主体的に高められるように科目を配置する。

| 身につけるべき能力 | | 1年次 | | 2年次 | |
|---|---|---|--|--|-----------------|
| <p><共通> ①</p> <p>看護実践を科学的・論理的に探求できる。 看護実践に潜む経験知を大切にしながらも、根拠に基づく看護を目指して、看護現象を科学的・論理的に探求できる。</p> | <p>看護理論</p> <p>フィジカルアセスメント</p> <p>最新病態生理学</p> <p>老年看護学特論Ⅰ(老年看護学の基盤)</p> <p>老年看護学特論Ⅲ(病態・治療論)</p> <p>災害看護対象論</p> <p>災害と制度</p> | <p>臨床薬理学</p> | | | |
| <p><共通> ②</p> <p>高い倫理性を身につけ、看護の質向上に関与できる。 看護職者としての誇りと高い自覚に基づいて、常に理想の看護を追求しながら、人間と命の尊厳を遵守し、絶えず看護実践・研究・教育の質の向上に関与できる。</p> | <p>哲学的人間論</p> <p>老年看護学特論Ⅳ(看護実践論)</p> <p>コンサルテーション論</p> <p>精神障害者制度・法律特論</p> <p>災害看護ケア論</p> | <p>看護倫理</p> <p>国際看護論</p> <p>老年看護学特論Ⅳ(看護実践論)</p> <p>老年看護学演習Ⅰ(慢性期における老年看護)</p> <p>災害看護援助論</p> | | <p>老年看護学実習Ⅰ(慢性期における高度実践老年介護)</p> <p>老年看護学実習Ⅱ(ケア施設における高度実践老年看護)</p> | |
| <p><専門看護師コース> ①</p> <p>高度な専門知識と技能を有し、基本的な研究力を修得している。 学士課程教育の基盤の上に高度な知識を持ち、生涯を通して学修を継続する力と新たな知識を常に修得する姿勢・態度を有している。また研究活動において、情報を駆使しアイデアを発展させ、応用する創造力を修得している。</p> | <p>看護研究Ⅰ(総論)</p> <p>精神療法</p> <p>精神看護学課題研究</p> <p>老年看護学課題研究</p> <p>災害看護学課題研究</p> | <p>看護研究Ⅱ(統計)</p> <p>精神科薬物療法</p> <p>認知症治療看護援助論</p> | | | |
| <p><専門看護師コース> ②</p> <p>高度な実践を遂行できる力と協働する力を修得している。 高度で普遍性のある教養を身につけ、知識を統合する能力を有し、自らの知識や理解を適用する際の社会的・倫理的責任を考慮しつつ、また人間と命に対する尊厳についての深い理解のもと、他分野と連携し複雑な課題を解決し高度な実践を遂行できる力を修得している。</p> | <p>看護教育論</p> <p>コンサルテーション論</p> <p>精神科アセスメントと精神科診断学</p> <p>精神看護高度実践看護介入技法</p> <p>精神看護直接ケア実習</p> <p>災害看護ケア論</p> | <p>精神科診断・治療実習</p> <p>老年看護学演習Ⅱ(ケア施設における老年看護)</p> <p>災害看護学実習Ⅰ</p> | | <p>リエゾン精神看護学</p> <p>精神看護サブスペシャリティ実習</p> <p>要介護者看護援助論</p> <p>災害看護学実習Ⅱ</p> | |
| <p><専門看護師コース> ③</p> <p>グローバルな視点を持ち、地域に根ざして行動する力を身につけている。 現代社会が直面する医療問題の解決に挑戦するために、多様な文化・制度等を理解し、学際的・国際的に適用する専門知識・技能及び自らの考えをもち、それらを専門家にも一般の人々にも、明確に伝えることができるコミュニケーション力及び行動力を身につけている。</p> | <p>精神障害者制度・法律特論</p> <p>老年看護学特論Ⅱ(健康生活評価)</p> <p>災害と制度</p> | <p>看護政策論</p> | | <p>役割開発実習</p> <p>防災・減災看護論演習</p> <p>災害看護学実習Ⅲ</p> | <p>災害看護学実習Ⅳ</p> |
| <p><専門看護師コース> ④</p> <p>地域社会を牽引するリーダーシップ力と調整力を身につけている。 自らの知識と技能及び問題解決能力を、専門分野において、またより広い学際的な領域において発揮し、地域社会における制度設計や変革を牽引するリーダーシップ力と調整力を身につけている。</p> | <p>看護管理論</p> | <p>精神障害者ケースマネジメント支援論</p> | | <p>老年看護学特論Ⅴ(サポートシステム)</p> <p>災害看護連携論</p> | <p>相談・調整実習</p> |

看護学研究科看護学専攻 博士後期課程 履修系統図

「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)

博士前期・後期課程それぞれの「修了認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)を実現すべく、両課程において共通科目と専門科目から編成されている。また、専門科目においては、共通して基盤看護学分野・生涯発達看護学分野・広域看護学分野の3分野を設けている。
 博士後期課程においては、前期課程で培った研究力をさらに発展させるための各種の研究方法を駆使する能力やグローバルな視点で探究できる学識を深めるための専門科目と演習等を組み合わせて編成する。
 そのため、博士後期課程の「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)を次のように定める。
 1) 看護学の担い手となる研究者として、各種の研究方法を駆使できる力を培うための科目を配置する。
 2) グローバルな視点で探究できる教育者として、専門分野の学識を深めるために各専門分野に特論と演習を配置する。
 3) 看護学の発展に向けて、学際的・国際的視野にたつて発信できる力を培う科目を配置する。

| 身につけるべき能力 | 1年次 | 2年次 | 3年次 |
|---|---|---|----------------|
| <p>① 人間と命の尊厳に対する深い理解と看護現象に対する洞察力ならびに自立して研究を遂行できる研究力を修得している。</p> <p>人間の健康に関わる諸現象を対象とする看護実践は、人間への深い理解と命の尊厳を遵守することを基盤にした長い歴史をもつ営みであり、それを支える看護学は、実践の質を高めるための研究の成果によって成り立っている。これらに関与できる博士後期課程修了者は、看護現象を自立して探求し続けることのできる研究力を修得している。</p> | <p>看護科学哲学</p> <p>理論看護学特論</p> <p>精神看護学特論</p> <p>母子看護学特論</p> <p>成人看護学特論</p> <p>老年看護学特論</p> <p>公衆衛生看護学特論</p> <p>在宅看護学特論</p> <p>災害看護学特論</p> <p>看護学特別研究口</p> | | |
| <p>② 健康問題/課題解決に向けて、グローバルな視点で探求し教育できる力を修得している。</p> <p>多様化・複雑化している人々の健康問題・課題に対して、学際的なグローバルな視点に立って探求するとともに、人々への健康教育をはじめ現職者や看護学生への教育に関与することのできる教育力を修得している。</p> | <p>看護教育学</p> <p>理論看護学特論</p> <p>精神看護学特論</p> <p>母子看護学特論</p> <p>成人看護学特論</p> <p>老年看護学特論</p> <p>公衆衛生看護学特論</p> <p>在宅看護学特論</p> <p>災害看護学特論</p> | | |
| <p>③ 看護学の発展に寄与するとともに、研究結果を国内外に向けて発信できる力を身につけている。</p> <p>諸学問の中での看護学は発展途上にあることを理解し、その発展に寄与するとともに、看護学の研究成果を国内のみならず海外に発信し、国際的なコミュニケーションを拡大できる力を身につけている。</p> | <p>看護学研究方法論</p> <p>高等社会統計学</p> | <p>理論看護学演習</p> <p>精神看護学演習</p> <p>母子看護学演習</p> <p>成人看護学演習</p> <p>老年看護学演習</p> <p>公衆衛生看護学演習</p> <p>在宅看護学演習</p> <p>災害看護学演習</p> | <p>看護学特別研究</p> |